

働く男たちの声で作ったリアルな傑作。

立体Xシャツ 5th Anniversary 特別企画

世界的デザイナーから、ファッション・プロまで…
立体Xシャツ愛用の、一言ある男たちから届いたメッセージを公開！

5年目の立体Xシャツへ。 3賢者からの「激励メール」。

アメリカブランドであるランズエンドがあえて日本企画で2006年にスタートさせた立体Xシャツ。それは、日本のビジネスマンにとって最適なシャツを作るというコンセプトから生まれた。立体Xシャツは、今年の春で5年目のバースデー。このロングセラーはひとえに、これを選び、厳しく評価し、愛用していただいた「日本の働く男たち」のおかげです！

お気に入りの一枚はコレ！



ノーアイロン・ピンポイント・ボタンダウン P.6

デザイナー

川崎和男 氏

「人間の肌との適合性。
次世代ファッションを探る、
私を選んだのは、立体Xシャツ」

ありがとうございます！
byランズエンド



医学部志望から、美大進学をすすめてくれた母は、VANジャケットとボタンダウン、さらにはプレスレットと指輪まで買ってくれました。「デザイナーになるんだから人一倍オシャレになりなさい」と。だから、私は、自分のファッションには強くこだわっています。

それは、いつでも「最高の質」を身につけること。特にシャツは「布地の6つの質感」にこだわります。「ほり」「ぬめり」「ふくらみ」「やり」「きしみ」「しなやかさ」。これが「布地のソフトさ」となつて着心地につながるのだと感じ、これまで様々なシャツとネクタイを身に付け、選んできました。そして今、選択として落ち着いたもののひとつが、立体Xシャツのノーアイロンボタンダウンなのです。

これはまず、「ほり」と「きしみ」感が、背筋をピンとさせてくれます。ビジネスや教育研究現場での緊張感を守ってくれます。「やり」感、動作を軽快にさせてくれます。「しなみ」と「ぬめり感」が品性を演出してくれます。そして、「ふくらみ」と「しなやかさ」が肌触りに安心感を与えてくれます。だから着心地がいい、というのがこのシャツの、デザイナーとしての感想です。現代のファッションに最も欠落していること、それはまだまだ先端技術を取り入れていないこと。未だソーイングして縫つて

いることです。人間の肌は「呼吸をしています」から、服も「呼吸している」ことが必須条件。これからのファッションは、まず、人間の肌との適合性が重要なのではないのでしょうか。そして、やがては自分の身体にフィットする「自分だけの製品」が、ネットワークで届く日がくるでしょう。ファッションデザイナーの限界をプロとして見つめながらも、そんな日を想像し、それらを統合化できる次世代デザイナーを育成することが、今の私の責務だと思っています。

そんな私の、私なりのダンディズムを表現するもの。それが立体Xシャツだと確信しています。

●川崎和男氏プロフィール

1949年福井市生まれ。魚座 B型 左右利き。デザイナー・レクター、大阪大学大学院教授、博士。学。デザイナー・レクターとして、伝統工芸品からメカネやコンピュータソフト、電子カエレキ、人工臓器、先端医療、海軍戦略、宇宙空間の設置化などまで幅広く、研究、教育、実務活動を行う。国内外での受賞歴多数。主要美術館に水久収蔵、水久展示多数。また、デザインによる世界平和構築をめざす「Peace Keeping Design(PO)プロジェクト」提唱、アラスカ州知事サラ・ペイリン氏のメカネのデザイン、在シカゴ総領事館・在米国日本国大使館・国際交流基金による「JAPAN DESIGN」の広報、ブリントント・ローバル・ユニシアティブ・インフラクトの、プロダクト・デザイン・アドバイザー就任と、世界的に活躍中。

「Newspaper 日本版」の世界が知られる日本人100人にも選ばれた、川崎の仕事が知られるインターネット・サイト <http://www.kazuokawasaki.jp/>

ブログでも話題。Voice from 立体Xシャツ・モニター 働く男たちの声、次ページからご紹介します！ 3